

「不登校」を考える

臨床心理士 福田 求
（“ ののはな ” 教育相談）

9 アセスメント

事例理解や支援方法に反映させるために、必要な情報（CI の個別の事情や家族歴、あるいは学校の状況など）を収集し検討する作業をアセスメントと言います。

本人に対する知能検査や心理テストなどの検査がよく用いられますが、不登校の事例では本人と接することができないことが多いので、保護者面接や担任面接とともに、学習活動や性格、あるいは学校生活の様子などの重要な情報源が記載されている成績表などを通しての情報収集が重要な手段となります。

(1) 本人のアセスメント

1) 行動レベルのアセスメント

本人の対人関係の持ち方

関係する相手との関係の持ち方や頻度、ソーシャルスキル（[参照](#)右コラム）の巧拙、生活空間の広がり（程度など）について、不登校以前と以後との比較などを確認します。

セルフ・コントロールの力

能力が一定程度ありながら学業の遂行が不十分な場合は、セルフ・コントロールの力が低い可能性があり、学業のみならず他の面でも問題や課題に立ち向かう力が弱く、成功体験も少なく、また努力を評価される環境には恵まれなかったということが推測できます。

【ソーシャルスキル】[参照](#) 12(2)》

ソーシャルスキルとは、社会の中で他者と関係を築いたり、他者と関わり合いながら日常生活を円滑に営んだりするために必要な、人間関係における知識や技術のこと。



< <https://ngantuoison2.blogspot.com/> >

「社会技能」「ライフスキル」などとも呼ばれます。ソーシャルスキルがあると、その場の空気に適した伝え方で自分の考えを主張することができます。

WHO（世界保健機関）では、ソーシャルスキルには、意思決定能力、問題解決能力、効果的なコミュニケーション能力、対人関係スキル、自己意識、共感などが含まれると定義しています。

2) 情動レベルのアセスメント

不安や恐怖

どのような学校場面でどの程度不安や恐怖を感じているのかを探ります。どのような身体症状があるのか、**日内変動**や**週内変動**などにも注意して確認します。

【SUD（主観的障害単位）】

不登校生に限らず、生徒が「**落ち込んでいる**」と口にした場合、どの程度落ち込んでいるのかを知るために、次のように言います。



<すずかこころのクリニック
suzukakokoro.jp>

「死にたいと思うほど落ち込んでいるときは0点。あまり心配しなくてよい場合を5点で表わすとすると、君の今の落ち込み度は何点になるか教えてくれるかな。」と聞き、3点以下の場合には**抑うつ度の検査**（[参照](#)次頁SDS）を実施しています。

不快の程度を尋ねる時は、SUD（主観的障害単位。[参照](#)左コラム）を利用するのが便利です。

攻撃反応

不登校事態がストレスなので、ストレスが増大すればするほど**攻撃反応**が頻度と程度を増してきます。不安や恐怖などの情動は本人の意思とは無関係に発生してきますが、攻撃反応は刺激の内容や状況の在り方に対する本人の**解釈**によって引き起こされるので、**対人関係の持ち方や家庭環境のアセスメント**も合わせた複合的な理解が必要です。

抑うつ・無気力

不登校を挫折と受け取ると、**無気力感**や**抑うつ感**が生じやすいが、趣味などの熱中しているものがあれば、現状を打開する意欲はあるので、それほど深刻な問題はないと考えられます。ただし、不登校が始まる以前から**抑うつ感**や**活動の低下**があったり、**悲哀感**や**睡眠障害**、あるいは**希死念慮**などがみられたりする場合は、早急に**医療機関**へ繋ぐことが必要です。

3) 認知レベルのアセスメント

不登校となり行動や情動レベルでのアセスメントで低い評価を得た児童生徒には、「自分はダメだ」とか、「どうせ自分なんて」といった投げやりな言動や、**自己効力感**や**自己肯定感**の低下がよくみられます。

自己評価は時間の経過や周囲の働きかけにより変化するので、Co は、CI がどのような自己概念や自己評価を抱いているのか、あるいは不登校になっていることをCI がどのように考えているのかを確認したり、自己肯定感の向上を意識させたりすることが必要です。

別紙

S D S (Zung Self-rating Depression Scale)

下記の 1~20 の心や体の状態が、最近のあなたにどの程度みられるかを右の欄の「なし」「時に(ときどきみられる)」「よく(かなりみられる)」「常に(ほとんどいつもみられる)」から選んで、その数字を で囲んでください。

	なし	時に あ る	よ く あ る	常 に あ る
1 気分が沈んで、憂うつだ	1	2	3	4
2 朝がいちばん気分がよい	4	3	2	1
3 ささいなことで泣いたり、泣きたくなくなったりする	1	2	3	
4 夜、よく眠れない	1	2		
5 食欲は普通にある				
6 まだ性欲があ				

<すべての掲載は不可>

19 自分が死ん			3	4
20 いまの生活に満足している		3	2	1

<こころの科学 No.106/11-2002 心理テスト法入門，松原達哉編著，

日本文化科学社，2001.より作成>

4) 能力レベルのアセスメント

発達障害や知的能力障害の有無を把握したり、学校や他の社会生活場面での適応を予測したり、能力特徴を生かした適切な指導援助法を探ったりするために、知能検査(例WISC，田中ビネー知能検査など)などの能力レベルのアセスメントは大切です。

【参照】 知的能力障害（知的発達症）

発達期に発症し、概念的、社会的、および実用的な領域における知的機能と適応機能両面の欠陥を含む障害のこと。以下の3基準を満たさなければならぬ。

臨床的評価、および知能検査により確かめられる論理的思考や問題解決、計画、抽象的思考、判断、学校での学習及び経験からの学習等、知的機能の欠陥。

個人の自立や社会的責任において、発達の及び社会文化的な水準を満たすことができなくなるという適応機能の欠陥や、継続的支援がなければ複数の日常生活活動の限定。

知的および適応の欠陥は、発達期

の間に発症する。
< DSM-5 日本語版用語監修 日本精神神経医学会 医学書院より >

(2) 家庭環境のアセスメント

1) 家族関係

家族構成員は、それぞれが家族以外の社会と様々な関係を保ちながら、親子や夫婦・兄弟姉妹・嫁姑などとの家族関係を築いています。不登校問題の解決には、これらの関係が安定し、安心と信頼に基づいたものであることが望ましいのですが、いずれかの関係が不安定になれば家庭機能に不全が起こり、問題解決は長引くと考えられます。

【知的能力障害の重症度分類】

軽度 ・支援があれば、読字や金銭などの概念を理解することができ、また買い物や家事なども1人でできるようになる。 ・コミュニケーションはパターン化されていることが多く、ほかの人と比べると未熟である。 ・記憶や計画、感情のコントロールなどが苦手である。

中等度 ・読字や金銭などの概念は小学生レベルにとどまり、常に支援が必要であり、また買い物や家事など1人でできるようになるまでは長い時間をかけて支援が必要である。 ・単純なコミュニケーションであればできる。 ・判断や意思決定をすることが難しい。

重度 ・読字や金銭などの概念について、ほとんど理解することが難しく、またすべての日常生活上の行動では、継続的な支援が必要である。 ・身振りや、単語・句を区切った単純なコミュニケーションであればできる。

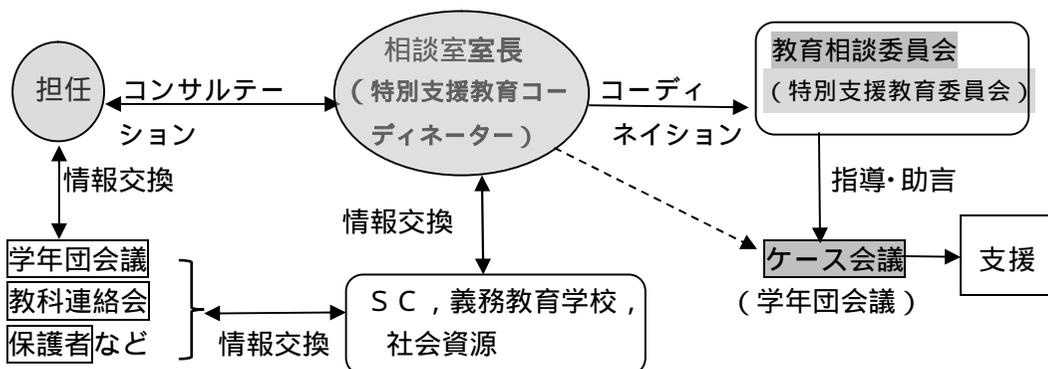
最重度 ・認識できるものは目の前にある物理的なものに限り、常に支援が必要である。またすべての日常生活上の行動では、他者の支援がないと難しい。
< アメリカ精神医学会の『DSM-5』（『精神疾患の診断・統計マニュアル』第5版）より作成 >

知的障害の重症度分類

重症度	IQ
軽度	約50~70
中等度	約36~49
重度	約20~35
最重度	約19以下

※専門機関などによって、IQの基準が異なります

参照 高等学校の不登校支援の流れ（凡例）---▶ 問題が簡明で深刻でない場合



(1) 教育相談委員会（特別支援教育委員会）

構成： 校長、教頭、教育相談係主任（特別支援教育コーディネーターを兼務）、当該生徒のホームルーム担任、学年（年次）主任、生徒課主任、進路課主任、教務課主任、危機管理係主任、保健主事、養護教諭、（SC）など

機能： 教育相談並びに特別支援教育を統括し、ケース会議に対する指導・助言などを行う。

(2) 教育相談室長（特別支援教育コーディネーター）

教育相談委員会・ケース会議への情報提供

ホームルーム・教科担任や保護者に対する支援（コンサルテーション）

ホームルーム担任を核とした支援チームをコーディネートし、様々な社会資源（医療機関や児童相談所など）に対して情報の提供や支援を要請する。

校内研修（係・教員・生徒）の企画・運営

(3) ケース会議

構成： 関わりのある教師や校務分掌の代表、SC、SSW、精神科医などにより、必要に応じて柔軟に組織される。

機能

- ・ 生徒の実態把握... 学習面や行動面で特別な教育的支援が必要な生徒の情報を集約した〔生徒の困り感に焦点を当てた心理テストなどの結果を含む〕個別実態把握表（別紙1）の検討を行う。
- ・ 保護者や専門機関などとの連携（コーディネーション）を取りながら、個別の支援教育計画表（別紙2）の検討を行う。
- ・ 支援内容・方法の検討・評価を行う。

「不登校」を考える に続く

「ストレスをやわらげる会」のご案内

ストレスを解消するためには、気晴らし行動（やけ酒、やけ食い、カラオケ、ショッピングなど）がよく行われていますが、それらは一時的な効果はあるかもしれませんが、弊害（成人病、依存症、金欠など）のほうが大きいようです。

そこでストレスを手軽にやわらげる方法（自律訓練法、動作法、カウンセリングなど）を、雑談や愚痴を交えながら楽しく身につける会を次の時と場所で開いています。

心身ともに楽になっていただければ幸いです。



* 日時： 金曜日、午後2時から3時まで

* 場所： 子育て・教育なんでも相談ネットワーク
相談室

* 世話人： 福田 求（相談員・臨床心理士）

* 入会金・参加費は不要です。体を動かしやすい
服装でお気軽にご参加ください。

お問い合わせは、TEL：090-2800-1057（福田）までお願い

いたします 😊